

○ 10月20日(木)

小学校スクールミーティング (相楽東部広域連立立笠置小学校)



○ 上原 委員

笠置小学校の児童数が24名、少人数のメリットとデメリットがあり、その取組を見せていただきました。小小連携合同学習(笠置・和東・南山城)を実践することによってデメリットを補い、児童たちが普段より大きなグループ活動ができていました。子どもの成長には、多種多様な意見に触れ、その中で自分を表現できることが大切です。また落語学習では児童一人一人がいきいきと発表して自己表現をしていたことに感動しました。



○ 安藤 委員

笠置山の緑と木津川の美しい水の自然に恵まれた笠置小学校を訪問しました。

時々、校舎の窓から教室を横切る金木犀の香りがなんともおだやかで、その風に乗って元気な歌声が聞こえてきました。

拝見した日は、ちょうど月に一度行われている近隣の小学校との合同授業と保護者参観があり、教室は明るい雰囲気になっていました。

2年生の教室では、国語の授業を見せていただきました。「手のひらを太陽に」という詩の一部を替え歌にし、一人一人が楽しいと思ったことや普段身近にいる動物や生き物を自由に書き込んだあと、グループでどの表現が良いか話し合いが持たれました。登場した生き物はおもしろく個性豊かで、それぞれに共感したり、興味を持ったり、普段少人数ではできないたくさんのことばの交流ができていたように思いました。授業の要所要所で、学ぶ目的や話し合いのポイントなどを意識づける先生の声かけもしっかりと連携がとれていて、授業の進度や学習規律の違いをあまり感じさせない、とても楽しそうな学習でした。

また、「文化を未来に伝える次世代育み事業」として取り組んでいる落語発表では、3年生から6年生までの子どもが、扇子と手ぬぐいを持ち、「時うどん」「動物園」「道具屋」を順番に演じてくれました。子どもたちは普段日常会話で使わない江戸弁で一生懸命噺を進めていきますが、登場人物を演じ分ける仕草や声色、そして絶妙な「間」は本物さながらで、各々に表現の工夫があり江戸時代へ迷い込んだような感じを味わうことができました。

聞き手として会場に集まった地域の方や保護者も、自由に想像力をふくらませ、頭の中に各々の噺を描くことができたと思います。「動物園」の”下げ”の部分、「心配すな、わしも一万円で雇われたんや」のひとつは、極上の笑いとなり、会場をどっと沸かせていました。

この学校では、集落が広範囲に及んでいるため、通学がスクールバスに頼らざるを得ないということもあり、放課後学校の運動場へ集まって遊ぶことも少ないようです。そんな中、比較的近い家のお友達同士で、発表に向けて練習している姿があったと、この日の発表をととても楽しみにしておられた保護者の方々が話しておられました。

授業を拝見した後の懇談では、地域でのふるさと学習の様子や、特色ある活動「落語」から学ぶ子どもたちの様子なども伺うことができました。落語学習で体を使った動作表現や感情やひとの心を表す極端な誇張表現を学ぶ過程で、いつもよりも喜怒哀楽が豊かになる、そして何より大勢の人の前で堂々と発表できる度胸も身に付くと、学習の成果をたくさん知ることができました。

子どもたちが町へ出かけたり、あるいは学校で地域住民の方々から学んだ成果を発信したりすることは、地域の活性化にもつながり、町の発展に子どもが欠かせない存在となっていました。

地域の原動力となる若者の流出や少子高齢化、農産業の後継者不足、雇用減少など、抱える問題も多くあると思います。今後も木津川の魅力、豊かな自然に囲まれた環境で、この町の発展を担っていく未来の若者たちを育てていって欲しいと願っています。